

Yamato Welfare Foundation
ヤマト福祉財団

ヤマトグループ賛助会員向け
ニュース(季刊)
発行部数13万部・非売品

2020.10.30 Autumn

No.
68

NEWS



巻頭企画 全奨学生に「緊急見舞金」を支給
山内理事長と3名の奨学生のリモート座談会

**コロナに負けず
もっと自由に、プラス思考で
奨学生たちの夢は広がる**





自らの行動で、 回りの理解を

Profile

1997年徳島県生まれ。徳島県立城南高等学校を卒業後、2016年に筑波技術大学に入学。2019年に理学療法士免許を取得し、現在は理学療法士として横浜市内の総合病院に勤務している。2018年大学3年次よりヤマト福祉財団奨学生。

現在世界各地でCOVID-19が大流行しています。未だこのウイルスについてわかっていないことが多く、日本でも感染に怯えながら生活することを余儀なくされている状況です。

私は現在理学療法士として3次救急の急性期病院に勤めており、COVID-19疑いの患者様も受け入れている病院です。そのためCOVID-19疑いの患者様が連日搬送されてきており、医療行為を行っています。その医療行為の中に私たち理学療法士が行うリハビリテーションも含まれています。私は今年の3月に理学療法士の資格を取得し、4月に現在の病院に入職した新人であるため、COVID-19の患者と関わることは基本的にありません。しかし他の患者様からは「直接かわらなくとも、感染のリスクが高い病院という場所で医療行為を行っていること」についても感謝している」ということを度々仰っていたことがあります。その言葉を聞くたびに、地域や世間のお役に立っていると感ずることができ、この理学療法士という仕事に充実感、やりがいを感じています。

このように充実感、やりがいを感じながら仕事ができるのはもちろん私だけの力ではなく、周りのサポートあつてのことです。私には視覚障害がありますが、同僚には私の見え方や、どのようなことができないのでサポートしてほしいなどを詳しく説明しています。それは障害のない人からすると、障害の程度や状況は本人にしかわからないことが大多数であるからです。厳しい話になるかもしれませんが、社会では全員が自分のことを理解しようとする人ばかりではありません。自分から行動し、自分の持つ障害を理解してもらうことは重要となってきます。そうすることで周りから自分の障害についての理解を得られ、より円滑に仕事が行えるようになっていきます。

自分の障害の状況を説明するのは決して簡単なことではなく、難しいことです。しかし、しっかりと説明し理解が得られ円滑に仕事が行えれば、障害がありながらも周囲の役に立つ人間になれると私は考えています。奨学生の皆様がそうなれることを私は願っています。

※障がいの表記について：本コラムでは著者の表記を尊重しています。

CONTENTS

表紙写真 奨学生とオンライン座談会、パワーアップフォーラムのオンラインセミナー、夏のカンパ贈呈、農福連携実践塾開講の様子で構成しました

- 03 巻頭企画 全奨学生に「緊急見舞金」を支給
山内理事長と3名の奨学生のリモート座談会
コロナに負けず もっと自由に、プラス思考で
奨学生たちの夢は広がる
- 08 賛助会員のみなさんへー財団のしごと
「障がいのある大学生の奨学金」編
「卒業後は社会に貢献したい」
障がいのある大学生の夢を応援します
- 10 テーマは「人は自立して生活することで幸せを感じられる」
2020年度 障がい者の働く場 パワーアップフォーラム
- 12 全国で助成金の贈呈式を行いました
- 14 農福連携実践塾が開講
農業と福祉の連携を 社会が求める事業に



日本障害フォーラムが
推進するイエローリボン
運動に賛同しています。

山内理事長と3名の奨学生のリモート座談会

コロナに負けず

もつと自由に、プラス思考で

奨学生たちの夢は広がる

ヤマト福祉財団では、障がいのある大学生に奨学金を支給^{※1}しています。現在、学生たちは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、いままでとは違った環境下での大学生活を余儀なくされています。財団では急遽、奨学生の現状をリサーチ。リモート授業への対応など予想以上に逼迫した経済状況が見えてきたため、一人当たり10万円の「緊急見舞金（総額310万円）」を4月1日

在籍中の全奨学生に支給しました。あれから彼らを取り巻く環境や生活はどう変化しているのか。7月末に山内理事長と3名の奨学生とオンラインによるリモート座談会を開催しました。

キャンパスを飛び出して

実社会での体験も交え学びを深める

山内 雅喜理事長（以下、理事長） 本日は座談会に参加していただきありがとうございます。まずは自己紹介からお願いします。

油田 優衣さん（以下、敬称略） 私は京都大学の教育学部に所属しています。私は、筋力が徐々に落ちていく脊髄性筋萎縮症という先天性の難病で、日常生活動作にほぼ全ての介助が必要です。公的な介助サービスを利用しながら、10人くらいのヘルパーさんに入ってもら

い、一人暮らしを続けています。

理事長 昨年は、一年間休学されたと聞いています。どんな勉強をされていたのですか？

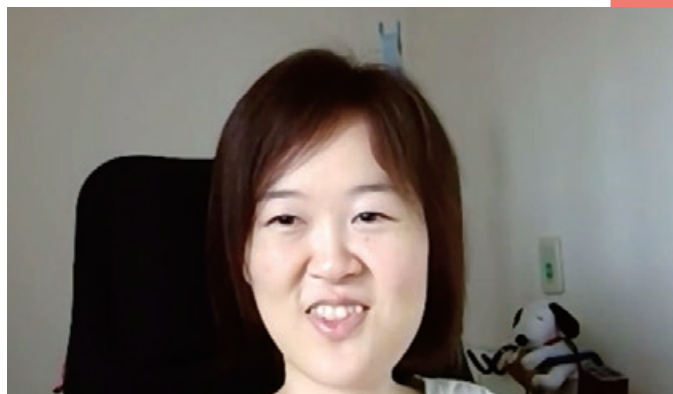
油田 私は3年間、周りの人と同じペースで課題をこなしてきましたが、その中で体力や時間の有限さを感じ、「もつと勉強したい、深めたいことがあるの」と葛藤していました。そこで、卒論や大学院の試験勉強に追われる4年生になる前に、1年間休学し、ゆっくり自分の学びを広めたい・深めようと考えたのです。

理事長 どのようなことを行ったのですか？

油田 関西は、部落や在日コリアン、セクシユ



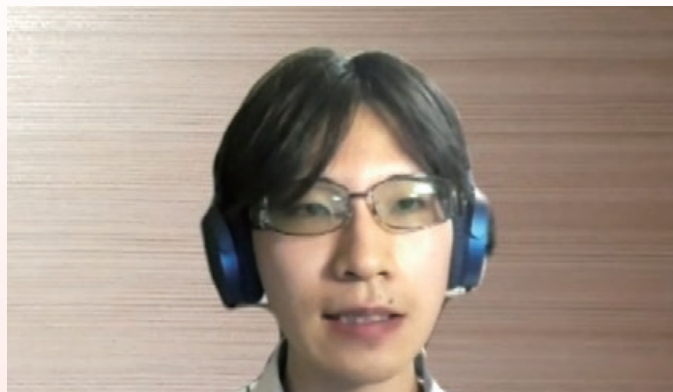
ただ あきは
多留陽菜さん(県立広島大学・保健福祉学部・4年)
※2017年度より奨学生4年目



ゆだ ゆい
油田優衣さん(京都大学・教育学部・4年)
※2016年度より奨学生4年目(昨年1年間は休学)



山内理事長



いとう みずき
伊藤瑞輝さん(東北大学・工学部・3年)
※2019年度より奨学生2年目

※1)詳しくは、p8/9 財団のしごと「奨学金編」へ。



自分がこうなりたいと
思う夢をこれからも
追いつけてほしい

様々な立場のマイノリティの権利と保障 大学院で研究し社会に役立てたい

油田優衣さん(京都大学・教育学部・4年)

進行性の難病「脊髄性筋萎縮性(SMA)」により、3歳から電動車椅子を使用。ペンを握ることやキーボード操作にも困難があります。2016年度から京都大学教育学部に進学し、24時間介助を使い一人暮らしを続けています。昨年は1年間休学し、学外の活動にも参加。関西在住のSMA患者グループでは「第5回SMAサミット」の開催も実現しました。現在は「障がい者だけではなく、さまざまなマイノリティの権利と保障を大学院で研究し、その成果を社会に役立てたい」と考えています。



移動は電動車椅子。日常生活のほぼ全動作に介助が必要なため、24時間の介助体制で大学生活を過ごしています。

アルマイノリティなどの差別の問題に取り組む活動も盛んな地域です。休学中のさまざまな人との出会いや学びを通じて、差別や排除といった社会の問題に取り組みたいという思いが改めて強くなりました。

理事長 実社会と接することで、自分の関心の本質をつかむことができた、価値のある経験を積めましたね。多留さんはどうですか？

多留陽葉さん(以下、敬称略) 私は、県立広島大学の保健福祉学部の4年生です。社会福祉の障がい分野を専攻し、支援論などを学んでいます。

理事長 特に力を入れている学びは？

多留 県立広島大学には、尊敬する障がい学を専門とする教授がいっぱいいました。でも休職されてしまったので、いまは学内で同じ志

を持つ仲間と学びのグループをつくり、みんなで研究を続けています。これにより、これまで障がいという枠にとらわれていた自分の考えが大きく変わりました。障がいとは身体の問題でなく、人との関係性の中で生まれてくるということもわかってきたのです。

理事長 他にも学外ボランティアなどに積極的に取り組んでいると聞いていますよ。

多留 高校1年生のときに、広島は大規模な土砂災害に遭いました。私は視覚障がいがあり、重い物を持つと網膜剥離が進んでしまうため、現場でのボランティア活動に参加することは難しいと医者に言われました。そんな私でもなにか役に立てることがあるはずだと考え、見つけたのが「周りに呼びかけて人を集める」コーディネートとしての役割でした。大学でも

自治体の職員として障がい者福祉の最前線で自分の力を発揮していきたい

多留陽葉さん(県立広島大学・保健福祉学部・4年)

高校1年生のとき、広島市を襲った土砂災害で約100名の生徒を被災地に導くボランティアコーディネータとして復興支援を指揮。第19回ボランティア・スピリット賞 文部科学大臣賞を受賞しました。「将来は、自治体の職員として障がい者福祉に貢献したい」と、県立広島大学 保健福祉学部に入學。大学での事例検討会、社会福祉協議会での実習などで実学を身に付けてきました。4年間で学んだ専門知識を福祉の現場で発揮したいと就職活動に励んでいます。



高齢者や障がいのある方も参加する地元のお祭りを盛り上げるために踊りを特訓。作業所で作ったお菓子も販売。

ボランティアサークルに入り、もっと社会のためにはできることを見つけていこうと、活動を続けています。

理事長 いろいろな人と一緒に動くことで大きな気づきを得て成長しているのですね。伊藤さんは、なにを学んでいるのですか？

伊藤瑞輝さん(以下、敬称略) 私は、東北大学の工学部・機械航空学科の3年生です。網膜の老化が早く、視野が狭くなっていく網膜色素変性症で、2年次に奨学生の申請をしました。制御工学、電気回路を専門的に学び、現在は量子サイエンスコースで原子炉の研究を行っています。

理事長 宇宙に関心があり、惑星探査ローバの研究にも取り組んでいるそうですね。

伊藤 ロケット開発のサークルに所属し、ハイブリッドエンジンでロケットを高度1000m以上まで打ち上げるなどの研究も行っています。月面に探査ローバを送る模擬競技などにも挑戦してきました。コロナ禍でアメリカの砂漠で行われる予定の大会が中止になりましたが、NASAの火星探査機打ち上げのニュースなどを聞くと心が躍ります。

理事長 自分がこうなりたいと思う夢を、これから追い続けてほしいですね。

リモートで解き放たれたのは行動範囲と障がいというバリア

理事長 4月に緊急事態宣言が出されたとき、私たちは奨学生のみなさんが、どのような状況におかれているのかが心配になりました。せっかく大きな夢や志を抱いて努力をしている

のに大丈夫なのか。電話やメールでみなさんの様子を伺ってみると、いままで活動してきたことができない、経済的な不安を抱えているなどがわかりました。そこで、僅かではありますが自由に使える緊急見舞金をお送りすることにしました。コロナ禍で、みなさんの大学生活や勉学にどのような影響が出ているのか。どう対応しているのかを教えてくださいませんか？

油田 私は無理の利かない身体なので、リモート講義になったことで通学などによる身体への負担が減り、体力的に楽でした。さらに、教室を使用しないので、教室へのアクセス等の問題を先生や他の学生と話をしているとき、画面に映る私を見ても、重度の障がいがあるとはわかりません。そんななかで、「あれ？私は『障がい者』なのか？『障がい』って何だったんだ？」と不思議な感覚になり考えさせられます。

理事長 障がいのバリアを感じなくなったとの声は、他の奨学生からも聞いていました。リモートで通学の負担がなくなる、ネットを介して障がいのある方の行動制限が解き放たれ、交流範囲も広がっていく、そんなプラス面が生まれていますね。

油田 障がいのあるなしに関係なく、いままでなんらかの形で無理をしていた人も、オンラインが進むことで、楽に学べる状況になったことが、一方ではあると思います。

理事長 我々もこの大変なこの状況をプラス思考で、より良くする契機として捉えていきたいですね。

多留 私も、正直、リモートになってくれて良かったと思っています。コロナの前は、片道約2時間半かけて通っていましたから。

理事長 往復だと5時間ですか。

多留 いまは大丈夫ですが、最初はかなり不安であり、かなり負担にもなっていました。

理事長 それは大きいですね。障がいのある方は、電車で移動も大変でしょう。

伊藤 私は、リモート講義になって気持ちが楽になりました。視覚障がいでは視野が狭いため、大講堂などでは空いた席を探して移動するのも大変だったのです。デメリットとしては、3密を避けるため、ロケット開発など一つの場所に集まり、みんなで一緒にものづくりをやりやすくなった点です。でも考え方を変えて、新しい挑戦もはじめています。

理事長 なにをはじめたのですか？

伊藤 私は、星を観察する天文同好会にも入っているのですが、コロナ禍でそれもできなくなっています。そんなとき出てきたのが「学祭でやったプラネタリウムを、ステイホームで楽しめるVRプラネタリウムとして実現してみないか」というアイデアです。早速、担当を分けて各人が自宅でスマホアプリを開発。いつでもどこでも、まるで宇宙空間にいるように、360度自分の見たい向きの星を眺めることができます。そんな世界をみんなで作っています。このコロナ禍でも発想を変えることで、自分の培ってきた力を発揮できる手応えも感じています。

ニューノーマルの良い面も悪い面も両方を大切に見つめ考えていきたい

油田 私は、技術面のことはわかりませんが、



伊藤さんが開発した360度VRプラネタリウム

これまでもZOOMなどを活用して学びや働き方などを変えることができると言われてきました。いまこうして実験していく中で、いろいろなことをみなさんが感じていると思います。距離も時間も気にしないで多くの方と話ができる良さ、でも対面でしか伝わらない人の息づかいや感情がわからないものさしなど、良い面も悪い面もありますね。

理事長 両面から見直していきたいですね。

多留 現在、私は福祉相談員を目指して就活の真っ最中ですが、広島では福祉相談員になるには自動車免許が必須です。でも私は視覚障がいのため取得が難しく、免許がなくても働ける関西方面にまで範囲を広げて就活をしています。

理事長 面接はリモートですか？

多留 現地面接です。これまで移動は料金の安い高速バスにしていたのですが、コロナ禍で利用できなくなり、新幹線を使わなければならずに困っていました。この交通費に緊急見舞金がありがたく使わせていただいています。

伊藤 私は、VR技術の研究費用に使わせていただきました。緊急見舞金をいただいたことが後押しとなり、思い切って今回のチャレンジもできました。

理事長 夢に向かうみなさんに、私たちの緊急見舞金が役に立っているお話が聞けてとてもうれしく思います。

社員のみなさんの声援に 夢を追いかけることでお応えします

理事長 では最後に、みなさんの将来の目標について教えてください。

油田 目の前の目標は、卒論を無事に書き上げること、大学院への合格です。長期的な目

標は、障がい者を含めたさまざまなマイノリティの存在や彼らが経験する困難を人々に伝え、彼らの権利を守られる社会を実現していくことです。

私は、障がいのある人が地域で暮らすための制度や資源が比較的豊かな京都市で暮らし、親元を離れて問題なく大学生活を送れています。しかし、全国を見るといまだに多くのハードルにぶつかり苦しい状況に置かれている人々がたくさんいます。それは社会の構造的な差別と関係しています。

今後、どのような形で自分が関われるか、社会運動を通じてなのか、大学のようなアカデミックな場なのか、両方なのか。いずれにせよ障がいのある人の権利保障のための活動に貢献していきたいのです。そして多くの人がより生きやすくなるように、私なりに発信をしていきたいと考えています。

理事長 1年間の休学で得た結論ですね。

油田 はい、自分が本当は何に取り組みたかったのかを、原点に立ち返って見直すことができた意義ある1年でした。

多留 いま私は、自分が本当にやりたい活動を行える職場を求めて、社会福祉協議会などへの就活を進めています。就職後は、大学生活を通して学んできた専門知識や経験を活かして、一人でも多くの方の役に立ちたいと思っています。障がいは、身体的なものでなく、人と人との関係性の中で生まれてくるものです。だからこそ、人と人より良い関係性を築いていける、そんなプログラムもつくりあげたいと考えています。

理事長 大変なことも多いと思いますが、その志を忘れずに就活を続けていけば、きっと良い職場と出会えるはずですよ。頑張ってください。

ださい。

伊藤 私は3年生です。進路を決めるにはもう1年あります。いま学んでいる原子炉関係は、とても意義ある学びでやり甲斐もあるのですが、あこがれていた宇宙工学の分野ではありません。

本当にこのままで良いのだろうか迷ったとき、奨学金の贈呈式でかけていただいた「夢を追いかけてください」と言う言葉を思い出しました。私がいたっている奨学金は、ヤマトグループの社員のみなさんが給料の中から出されているものだと思っています。そんな大切なお金で応援していただいているのですから、夢を追いかけていきたいです。

1年後、大学院に進み宇宙工学関連の研究を続けていくことで、みなさんに恩返しをして

いけたらと考えています。

理事長 クロネコヤマトの社員は、約22万人います。ご家族を入れると約40万人が、みなさんを応援しています。この声援を未来を拓く力としてください。

奨学金というつながりではじまったみなさんとの関係ですが、卒業して終わりではなく、これから先もずっとつながっていきたくて願っています。なにか困ったり、悩んだときは、いつでも相談してください。自分がこうなりたいと描いた夢をあきらめることなく、いつまでも追いかけてください。そんなみなさんを、私たちは応援していきますよ。今日はありがとうございました。また、お会いしましょう。

三人 ありがとうございます。これからも、どうぞよろしく願っています。

宇宙科学分野のロボット開発は エネルギー問題解決の糸口にもつながる

伊藤瑞輝さん(東北大学・工学部・3年)

「宇宙科学分野のロボット開発に携わりたい」と東北大学・工学部へ。サークルでは、惑星探査のために実際に地面に降りて調査するローバを研究開発。工学・数学の基礎から、電子制御プログラムや部品設計、機械加工、さらにグループでものづくりを進めマネジメント能力も高めました。現在、天体の成り立ちを知ることは、地球規模の環境問題やエネルギー不足の問題解決にもつながると、量子サイエンスコースで原子炉の研究に取り組んでいます。



ロケット開発サークルでは、ローバの走行を制御するソフトウェア開発とプロジェクトのマネジメントを担当。

島根大学人間科学部人間科学科福祉社会コース 4年生
藤原 歩未さん

小児病棟の児童にオンラインでボランティア

中学3年のときにかかった病気で、人工呼吸器と車椅子生活になった藤原さん。小児病棟に入院しているときに自身の夢が見えてきました。ソーシャルワーカーが自分と社会とつないでくれたように、「医療的ケアを必要とする障がいを抱えた子どもたちと社会をつなぐかけ橋になりたい」、その思いで大学で学び、社会福祉士資格取得を目指しています。

大学3年時の頃から医療的ケア児の学生団体活動も行ってきました。コロナ禍で自分たちができることはないかと、小児科病棟でオンラインを使用したボランティアを開始。小児病棟の保育士と連携して、入院している児童に読み聞かせや、年齢に合わせた遊びの提供を行っています。コロナ禍でさまざまな不便や困難もありますが、新しいつながりを発見し、この状況だからこそできること、学べることを行っていきたいと、話しています。



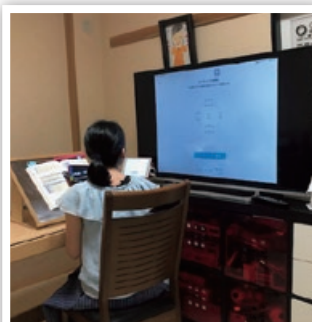
社会福祉士資格取得を目指して勉強中

東京都立大学健康福祉学部理学療法学科3年
渡辺 麻姫さん

52インチの大型テレビでオンライン授業を克服

生まれつきの視覚障がいにより、小学校・中学校では周囲の支えで自由に学ぶことができたこと、この恩返しをしたい、誰かの助けになる仕事がしたいというのが、渡辺さんの学びの原動力となりました。得意の生物や語学を生かせる仕事を模索した渡辺さんが目指したのは、理学療法士。途上国で身体に障害のある人たちの生活の質を向上させることに携わりたいという夢に向かっていきます。

緊急見舞金では52インチの大型テレビを購入し、オンライン授業の環境を整えました。授業の中でも、画面をカーソルで示すのでなく言葉での説明をしていただく配慮を多くの先生に共有していただいていたといいます。オンラインのコミュニケーションの取りづらい環境で、先生との信頼関係や密な連絡が重要になると実感し、できる限りの工夫を凝らして学んでいます。



大型テレビで勉強の環境を整えました

広島大学総合科学部総合科学科 3年
三浦 良介さん

国際大会も延期、来年へ前向きに前進

脳性麻痺により子どもの頃から右半身に麻痺のある三浦さんは高校生の頃から、CP(脳性麻痺者7人制)サッカーの日本代表選手として活躍しています。世界大会に出場して感じたのは、出会った海外の障がいのある選手がじつに社会的で自立しているということでした。自分が関わっている競技を通じて、障がい者に生きがいや社会復帰の手段を分かち合いたい。よりよい共生社会を築いていける人材として自分を磨きたいと大学へ入学。コロナ禍でオンライン授業になり約8ヵ月間も大学に登校していません。

6月に予定されていたスペインでのCPサッカー国際大会も延期です。しかし、甲子園やインターハイ、文化系の大会が中止になった中学生や高校生に比べたら、延期になっただけありがたい。来年に向けて前向きに前進したいと、持ち前のポジティブ思考で頑張っています。



CPサッカーで活躍、背番号14番が三浦さん

東京農業大学地球環境科学部森林総合科学科 3年
石黒 舞さん

障がいをフォローする情報を先生方も共有

森林と自然環境、人との関わりを学び、社会に貢献したいという夢をお持ちの石黒さん。前期は大学への登校禁止で、5月からオンライン授業が始まりました。石黒さんは重度の難聴のため補聴器や人工内耳で、音を拾いながら読唇することで、相手の話を理解します。授業で使われる音声付きのファイルはスライドを見ながら音声を聞くので、石黒さんにとっては理解するのに不利なものでした。そこで先生にスライドの音声概要添付をお願いしたところ、すべての先生に共有されました。音声で聞き、先生が作成された音声概要と講義内容が記載されているスライドを確認しながら受講するため、1時間半の授業が何時間もかかっています。しかし、子どもの頃から自分の障がいについて発信、発言をすることで道を切り開き、視野や選択肢が増えたという石黒さんの頑張りが、オンライン授業も充実したものになっています。



樹木、苔、蔦に生命力を感じて撮影したお気に入りの1枚(高尾山ハイキングで)



写真は本誌「奨学生レポート」で取材をさせていただいた奨学生のみなさん

27年間で延べ766名の奨学生に累計4億5,209万円を給付

ヤマト福祉財団の設立とともに開始した障がいのある大学生への奨学金。当初は1名からのスタートでしたが、年々その人数は増え、27年間で延べ766名の大学生を支援し、現在までに累計で約4億5,209万円の奨学金を給付しています。学生たちがどのように奨学金を活かし、大学生活を送っているかは、本誌の「奨学生レポート」で紹介しています。

2020年度の奨学金は…

障がいのある1～4年次の大学生40名

一人月額5万円×12ヵ月＝年間60万円

給付総額：2,400万円

+

コロナ禍での「緊急見舞金」を給付

4月1日に在籍中の奨学生に一人10万円ほか、総額310万円

「卒業後は 社会に貢献したい」 障がいのある大学生の 夢を応援します

「障がいのある方が、自立して生活すること、幸せを感じられるを大切に」。そのために財団のしごとの一つに「障がいのある大学生への奨学金」があります。この奨学金は「大学卒業後に、社会のために貢献したいと考え、そのために勉学に勤しんでいる障がいのある学生」を支援するものです。奨学金は一人月額5万円、1年で60万円、4年間だと240万円になります。その用途は、大学生生活を継続するため、また学業に必要な書籍やパソコンなどの購入で、卒業後の経済的な負担とならないように、奨学金の返済は不要としています。



みなさんの心がこもったご寄付を 高い志を持って学ぶ障がいのある大学生たちに

2～5月…奨学金希望者は、申請書類を作成し提出

○例年2月にヤマト福祉財団のホームページに「募集要項」を掲載します。

○奨学金を求める大学合格者や現役大学生は、4月～5月に「申請書類」を提出。

応募書類は…

願書、履歴書、家計簿、障がい者手帳のコピー、学校からの推薦書、将来の展望をまとめた作文など。



6月…選考委員会を開き、その年の奨学生を決定

○6月に選考委員会にて書類選考を行い、奨学生を決定します。

○応募者全員に結果を通知します。

選考委員会では、どのような時も将来のために前向きに学ぶ姿勢などを評価。



7～9月…奨学生を訪ね奨学金の贈呈式を行います

○7月～9月に奨学生が在籍する大学で贈呈式を開催。

○卒業するまで、4半期ごとに奨学金をまとめて振込にて給付します。

今年も1年生から4年生まで、計40名の学生に奨学金を給付しています。



その後は…奨学生は半年ごとに学びや大学生活について報告

○半年ごとに学生生活の近況を報告。

○進級時には在学証明書を提出します。

○財団NEWSでの奨学生取材、コラム執筆にも協力いただきます。

卒業時には…

進路調査回答と進路報告を提出してもらいます。医療関係従事者となった卒業生は「医療機関の障害者雇用ネットワーク^{※2}」（ヤマト福祉財団助成事業）に加入。現在4名が登録しています。



※2) ホームページ「夢をつなぐDoctor's Network」を参照。

今年は、オンラインセミナーとして開催



ヤマト福祉財団の理事長室をオンラインセミナーのメイン会場にセッティング。当日、東京会場編には山内理事長ときょうさんの藤井専務理事が、大阪会場編では(社福) 武蔵野千川福祉会の新堂氏も同席されました



山内理事長
「変わるべきもの、変わるべからざるもの」の両方を大切に、経営者として正しい舵取りを行ってください



きょうさん
藤井専務理事
いま守るべきは、利用者さん、職員、事業所の三つ。大切なのは、その中心に利用者さんを置くことです



講演者や実践報告者は、オンラインで参加。事前テストにも協力いただき準備を整えました

2020年度

障がい者の働く場 パワーアップフォーラム

テーマは「人は自立して生活することで幸せを感じられる」

今年のパワーアップフォーラムは、コロナ禍でもより多くの方が参加でき、高い意識で取り組みを続けられるように、オンラインセミナーで開催しました。9月25日(東京会場編)と10月2日(大阪会場編)、ヤマト福祉財団の理事長室から配信し、合わせて約300名の視聴者に参加いただきました。

オンラインで職員も利用者さんも一緒に受講

今年のテーマは「人は自立することで幸せを感じられる」です。セミナーは、山内理事長による「コロナ禍の『満足創造経営』」の講演から開幕。ヤマトグループがどのような経営戦略でお客様のご要望に応えてきたかを振り返り、福祉施設が売上と給料増額を目指すための、九つの経営ヒントを紹介しました。

「コロナ禍でさまざまな変化に直面し戸惑っている方もいると思いますが、できなくなったことではなく、できるようになったこともあるはずです。お客様と現場職員の声は、経営者にとって宝の山。そこには新しいアイデアが隠されています」。

続いてきょうさん藤井克徳専務理事による時流講座へ。

「同じコロナウイルスでも、各国の対応は異なっています。これは政治や制度、人々の意識の違いであり、人権問題に対するバロメーターとしても見るができます。そのためにも正しい情報を知ることが大切と、藤井氏は現在の社会保障・障がい分野をめぐる動き、就労の実態などを詳しく解説しました。

さらに講演者にはヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者が、実践報告には夢へのかけ橋実践塾で学んだ施設職員がオンラインで登場。視聴者からは「いつもは会場に行けない利用者さんや職員も一緒に受講できて良かった」などの感想がありました。

シンポジウムでは、コーディネータの藤井氏が「自立生活と幸せ」についてシンポジストたち一人ひとりの考えをピックアップ。また、視聴者からの質問もオンラインで受け、シンポジストたちが直接アドバイスをしました。

9月25日・東京会場編

講演



(社福)はらから福祉会
理事長 **武田 元氏**
第3回ヤマト福祉財団賞受賞

簡単な仕事も難しい仕事も、どちらも商品づくりには大切。それをみんなが理解しているから、同じ給料を支払えます。



(社福)キャンパスの会
理事長 **楠元 洋子氏**
第13回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

コロナ禍でもアイデア次第で新たな可能性を広げられます。失敗を恐れずにできることからトライしてほしいですね。

実践報告



(社福)亀岡福祉会
第三かめおか作業所
施設長 **日下部 育子氏**

PDCAのP(計画・目標)では、職員みんなが納得できる明確な数字を立てることが大切になります。



(一社)おひさま
いいはたらくばトボス
施設長 **小林 綾子氏**

毎日みんなで改善点を話し合いました。1日75個しかできなかったお弁当が、現在は1日450個に伸びています。

利用者さんの成長する姿は 職員の働く喜びであり原動力

午後の講演で、はらから福祉会の武田氏は、最も障がいの重い方を円を中心に置いてほしいと話しました。「障がいの重い軽いに関係なく一緒に働けるチーム化。難度の高い作業も利用者さんが担当できる機械化。これにより、全員により高い給料を支払える、高品質な商品づくりを実現します」。

キャンパスの会の楠元氏は、弁当配食サービスで成果を上げるノウハウを紹介。「食材・観光資源・人材など地元になががあるかを調べてください。それを活かしてなができるかを考えれば、市場競争に打ち勝つアイデアも生まれてきます」と伝えました。

続いて亀岡福祉会の日下部氏、おひさまの小林氏の実践報告へ。お二人は、夢へのかけ橋実践塾の卒業生です。武田氏・楠元氏より学んだことをどう反映しているのか。成功だけでなく失敗談も交え報告しました。

シンポジウムで話し合ったのは、利用者さんの「自立と幸せ」についてです。「働くことができないと、1本の缶ビールも自由に飲めない。まずは働き収入を得ることから」「なんでも完璧を求めない。上手苦手を含め、その人に合う働く場を提供したい。」「できることを評価し時給も上がると、やる気も違ってくる。」「どんどん目標や夢が広がっていく利用者さんの姿を見ると、私たちも幸せになれる」と話は広がっていました。



10月2日・大阪会場編

講演



(社福)武蔵野千川福祉会
常務理事 **新堂 薫氏**
第9回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

ちょっとした工夫で利用者さんのできることは広がっていく。そんな支援こそ、福祉施設職員に求められる専門性です。



(NPO)ENDEAVOR EVOLUTION
理事長 **松浦 一樹氏**
第18回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

仕事を提供するだけでは福祉と呼べない。家族のように悩みを共有できれば、本当に必要とされる支援もできます。

実践報告



(社福)ゆたか福祉会
ワークセンターフレンズ 星崎
副所長 **稲垣 伸治氏**

利用者さんの挑戦意欲に応えられる職場環境さえあれば、コロナ禍でもピンチをチャンスに変えられるはずです。



(NPO)ふくおか福祉とびうめ会
代表理事 **福本 慎吾氏**

ペット関連の商品づくりで売上を拡大。利用者さんの育成と評価方法を工夫し、能力に応じた給料増額を実現します。

汗水流して得たお金の価値を 知るのも自立と幸せの第一歩

最初に講演した武蔵野千川福祉会の新堂氏は、DMの封入封かんを複数の事業所で展開しています。「利用者さんは、働く力を身につけると、より高い給料の事業所に異動できます。給料が上がれば仕事への意欲や責任感、新しい夢も生まれてくる。そんな利用者さんの姿を見るのが楽しみです」。

ENDEAVOR EVOLUTIONの松浦氏は、施設外就労に特化した仕組みで一般就労へのステップアップを実現しています。「得意、不得意関係なくみんなが協力し合い、仕事をやりこなす。この経験が、社会や企業で働く上で活きてきます」。

実践報告では、ゆたか福祉会の稲垣氏、ふくおか福祉とびうめ会の福本氏が登場。給料増額に、誇りの持てる仕事づくり、どのように取り組んでいるかを報告しました。



事を利用者さんが担当。家族にほめてもらえてうれしそうです。「自分たちの商品が店頭で並ぶ姿を見て、社会とつながる喜びを感じている」などの考えが生まれました。また、汗水流して稼いだお金は価値が違ふことを学んでほしいとの意見もあります。「利用者さんが給料をどう使うか。社会人として自立し、幸せな人生を送るために、職員の支援が必要です」と視聴者に呼びかけました。

全国で助成金の贈呈式を行いました

東北支社



北海道支社



北関東支社



東京支社



北信越支社



南関東支社



東奥日報2020年8月4日掲載

東西南北+

障害者自立に100万円助成

障害がある人の経済的自立を支援しているヤマト福祉財団は、本年度の福祉助成金事業の助成先に五所川原市の就労継続支援B型事業所「ワークセンターつばさ」を選出し、7月28日、助成金100万円を贈った。

同財団は、ヤマト運輸元会長の故小倉昌男氏が個人資産を寄付して1993年に設立された。ヤマトグループの社員や賛助会員の寄付、募金などで基金を造成。全国の障害者支援団体などに毎年助成金を贈っており、本年度は44事業所に計7452万円を助成している。

このうち、本県からは障がい者給料増額支援助成金のステップアップ助成部門に、五所川原市の社会福祉法人愛生会が

運営するワークセンターつばさが選ばれた。28日に同事業所で贈呈式が行われ、ヤマト運輸の小林功育森主管支店長が、寺田政史理事長職務代理に目録を手渡した。同事業所はヤマト運輸が手がける遠販カタログなどのメール便配達を請け負っており、助成金は配達の際の車両購入に充てて。

(秋元宏宣)



小林主管支店長から贈呈者を受ける寺田理事長職務代理

中国支社



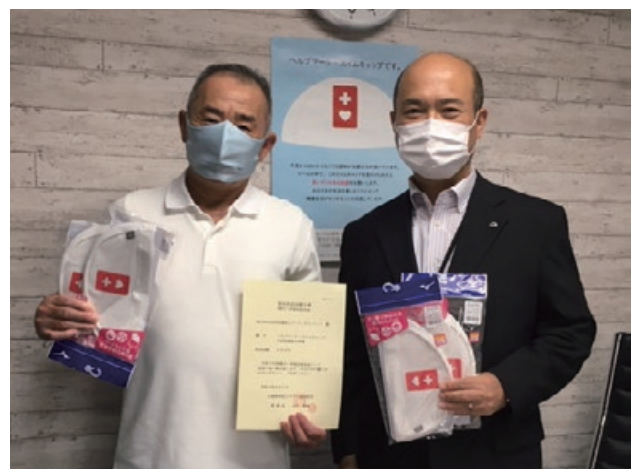
中部支社



関西支社



四国支社



九州支社





アドバイザー 川田勝也氏
「社会の課題解決に寄与する、そこに農福連携があります」



講師 林博文氏
「地域に必要とされるものを作ることで、障がい者施設が地域のインフラになります」



塾長 熊田芳江氏
「農業の現状を福祉が支える、農福連携が進む時代になってきました」



農福連携実践塾が開講

農業と福祉の連携を 社会が求める事業に

福井県
あわら市
9月10-11日



5月にスタート予定の農福連携実践塾がコロナ感染拡大のため、4カ月遅れの9月10～11日に福井県あわら市で開講しました。塾長は「社福」こころんの常務理事で、夢へのかけ橋実践塾の熊田塾の熊田芳江氏。講師に（NPO）ピアファーム理事長の林博文氏、アドバイザーに（株）エスリーブランディング代表取締役の川田勝也氏という体制を進める2年間です。

全国から集まった塾生は、熊田塾OBの4人を含め14名。農業を事業として行い、工賃向上を目指すために具体的にどうするかを学ぶ実践塾です。自己紹介のあと熊田塾長、林氏、川田氏の講義からスタート。熊田塾長は「きちんと工賃を払って、社会の中で必要とされる事業をするという意識で参加していただきたい」、林氏は「農業は簡単に儲かるものではない。福祉の中の農業ではなく、農業の中に福祉があるという意識が大事」、川田氏は「担当者が変わっても、商品が変わっても、理念に基づいたブランドは残っていく」とブランドをつくることの意味や効果を話しました。

講義後には塾生が目標や計画を報告。それに対して「借金で加工用の機械を入れるより、本業の農業で収益をあげるべき」「生産調整するのはなく、どう売上をあげるか考えて欲しい」「自分の考えを明確に、この塾で学ぶ意味を考えて欲しい」など、塾長や講師から厳しい言葉が飛び交い、1日目終了。2日目はあわら市にある講師の林氏が運営するピアファームの梨園、観光ぶどう園を見学、なしの収穫を手伝いました。

研修の最後に、塾生一人ひとりが自分の意識や考え方、発表した目標、事業計画などへの反省と2年間の学びへの期待を話し、第1回目の農福連携実践塾を終りました。

7,275万5,000円のご寄付を障がい者の自立支援に大切にに使わせていただきます



ヤマト労連森下会長と山内財団理事長

ヤマト運輸企業労働組合連合会で行われる2020年の「夏のカンパ」より、72,755,000円のご寄付をいただきました。山内理事長より紙面を借りてお礼を申し上げます。

「毎年、寄付が増えてまずはありがたく、お礼を申し上げます。今回も執行委員の方がお声をかけていただいて、障がいのある方達へ力になろうという、みなさんの気持ちが広がっていったのだと思います。」

今年は、単に一人ひとりの額が増えたというより、全体に参加して下さる方が増えてカンパだけでなく、財団の賛助会員も75,158名から78,856名と約3,700名の方が新しく会員になっていただきました。これもヤマトグループ、みなさんの気持ちが高まってきたことの表れだと思います。

みなさまから受けたあたたかい気持ちを、障がいのある方たちが幸せに暮らせるような支援に、大切にに使わせていただきます」。

財団のサイトをリニューアルしました

新しいサイトはより多くの方に、財団の取り組みをいつでも、どこでもみただけのようにスマートフォン対応としました。セミナーやイベント、助成金や奨学金への募集もトップページからすぐに入れるようなデザインです。新サイトを使って、オンラインでの事業報告や説明会なども企画し、障がいのある人のための活動をお手伝いしていきます。

[ヤマト福祉財団](#)

[検索](#)



2020年度ヤマト福祉財団奨学生の贈呈式を行いました

ヤマト福祉財団では、社会に貢献することを目指し、頑張っている障がいのある大学生に月額5万円（返済不要）の奨学金を差し上げています。今年は全国から79名の応募があり、選考委員会で11名の新たな奨学生を決定。キャンパスにお伺いして贈呈式を行いました。



串田達哉さん
岐阜聖徳学園大学
経済情報学部 1年



藤村 光さん
島根県立大学
人間文化学部地域文化学科 2年

御大典記念 特別展 よみがえる正倉院宝物 ー 再現模造にみる天平の技 ー



模造 黄銅合子(おうどうのごうす) 正倉院事務所蔵



模造 螺鈿玉帯箱(らでんぎょくたいばこ) 東京国立博物館蔵



模造 黄金瑠璃鍔背十二棱鏡(おうごんるいでんはいのじゅうにりょうきょう) 背 正倉院事務所蔵



模造 酔胡王面(すいこうおうめん) 正倉院事務所蔵

再現模造の逸品を一堂に

正倉院宝物とは、奈良・東大寺の倉であった正倉院正倉に伝えられたや9000件におよぶ品々です。その多くが奈良時代の作で調度品、楽器、遊戯具、武器・武具、文書、染織品など多彩な分野にわたります。しかし正倉院宝物は、毎年秋に奈良で開催される「正倉院展」で一部が展覧される以外はほとんど公開されてきませんでした。

正倉院の本格的な模造製作は明治時代に奈良・東大寺で開催された博覧会を機に、修理と一体の事業として始まり、昭和47年からは宝物の材料や技法、模造の忠実な再現に重点を置いた模造製作が行われるようになりました。本展は、これまでに製作された数百点におよぶ再現模造品作品の中から、選りすぐりの逸品を公開するものです。

人間国宝ら伝統技術保持者の熟練の技に触れる

およそ1300年の時を経て、正倉院宝物の製作当初の鮮やかな姿がよみがえります。明治・大正・昭和・平成と、今日に続く再現模造事業では、継承された伝統の技に加え、CTスキャンなどの最新の技術が融合することにより、内部構造までも再現した逸品が次々と製作されています。現代の名工たちが、伝統工芸と最新の科学技術を融合させて再現した天平美の芸術的深みや品格が最大の見どころです。

本展はヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社が作品の輸送・展示をしています。

※巡回会場ごとに展示作品は一部入れ替わり、展示作品数も異なります。

DATA

開催期間 ▶ 2020年10月3日(土)～11月23日(月・祝)

開催場所 ▶ 名古屋：松坂屋美術館

アクセス ▶ 地下鉄名城線矢場町駅 地下鉄直結(5・6番出口)
地下鉄栄駅下車16番出口より徒歩5分

開館時間 ▶ 10:00～19:30 ※最終入館は閉館30分前まで
※ただし最終日は午後6時閉館

観覧料 ▶

	一般	高・大学生
(税込)	当日 1,200円	900円

中学生以下は無料

※障害者手帳・特定疾患医療受給者証をお持ちの方と付添の方1名様まで無料

主催 ▶ 宮内庁正倉院事務所、松坂屋美術館、朝日新聞社、NHK名古屋放送局

学術協力 ▶ 奈良国立博物館、九州国立博物館

協賛 ▶ ライブアートブックス

後援 ▶ 日本工芸会

問い合わせ先 ▶ TEL052-264-3611

公式サイト 特別展 よみがえる正倉院宝物

<https://shosoin.exhibit.jp>

※コロナ感染症の状況により、会期など変更の可能性がございます。

巡回情報 ▶ 沖縄県立博物館・美術館 2021年2月9日(火)～3月28日(日)
福岡：九州国立博物館 2021年4月20日(火)～6月13日(日)
新潟県立近代美術館 2021年7月3日(土)～8月29日(日)
北海道立近代美術館 2021年9月15日(水)～11月7日(日)
東京：サントリー美術館 2022年1月26日(水)～3月27日(日)
※巡回会場の会期は未定です。

今年はおうちでクリスマス



XAハッピー シャトン・フリーズ



XFハッピー ストロベリー



XCハッピー ア・ラ・カルト



XEハッピー モンブラン



XBハッピー ショコラ・プリエ



XDハッピー ガトー・フロマージュ



XGハッピー アンジュ・ブラン



XHハッピー シュトレッ

スワンのハッピーケーキで
おうちクリスマスを盛り上げます。

お申し込み 10月14日(水)～11月25日(水)
お届け日 12月20日(日)～12月24日(木)

●障がい者施設からもご予約いただけます。

お問い合わせは(株)スワン 担当：石引・藤野まで
☎ 03-3543-1067

スワンのクリスマスケーキ 検索



読みやすさを追求した書体